

共通テスト数学ⅡB 講評

京進 大学受験部 数学科

■ 共通テスト4年目 分量・計算量は同等

数学ⅡBは昨年と同様の出題形式であったが、分量と計算量は昨年度と同等である。第1問・第2問では正しいグラフを選択肢の中から選ぶ問題が多かった。特に、第2問では、定積分の性質を考慮する必要があり、判断するのが難しい。選択問題である第3問から第5問の3問はどれも基本的・典型的な問題で、必須問題の第1問と第2問に比べると解き易いものとなっていた。



■ 出題形式は昨年踏襲

昨年に比べるとやや易化した。第2問が最も難しかったため、第2問以外を短時間で解き切り、最後にじっくり時間をかけて取り組むことが高得点取得の鍵である。

大問別難易度分析

問題番号	内容	配点	難易度	解答時間目安	講評
1	〔1〕指数対数関数 〔2〕整式	30	〔1〕標準 〔2〕標準	17分	〔1〕対数関数の公式利用と、底の大きさに留意する場合分けの問題。出題が珍しい単元であった。 〔2〕整式による割り算の余りを扱う問題。剰余の定理を使いこなせるかどうか鍵である。
2	積分法	30	やや難	17分	(1)は典型的で解き易い問題。(2)(3)は定積分の性質とグラフの融合問題。2次関数や3次関数の対称性を利用する問題であるが、判断が難しい。
3	確率分布と統計的な推測	20	やや易	13分	基本公式が理解できていて、誘導に素直に従うことができれば容易い問題であった。
4	数列	20	やや易	13分	具体的な数値を代入する計算問題が多く、数学的帰納法も扱われた。最後の問題は、それまでの内容を考察して真偽判定を行うものであった。
5	ベクトル	20	やや易	13分	内積を利用し、座標空間における最短距離を求める問題。典型的な問題であるため、計算ミスをしたくないことが肝心である。

(大問1・2は必答、大問3・4・5は3問のうち2問選択)

■ テスト結果から今後の課題を見つけよう！

得点	現状	今後の課題
75点～100点	共通テストレベルの応用問題に対応できるような高い水準の学力が身についています。	共通テスト形式の演習に積極的に取り組み、2次試験レベルの演習を通じて、さらなる学力向上を目指しましょう。
55点～74点	基本問題への対応ができています。また応用問題にも対応できつつあります。	今後は応用力の強化を目指そう。共通テストや2次試験のような、少しレベルの高い問題にも意欲的に取り組んでいきましょう。
30点～54点	公式の活用や基礎計算ができています。ただし単元によって、理解度にムラがあるようです。	まずは基礎力を定着させよう。苦手単元の克服が今後のポイントになります。教科書の中身を理解した上で、続いて傍用問題集の演習に取り組みましょう。
0点～29点	全体的に基礎内容での不安があります。学力向上の途上段階にいます。	数学ⅡBの全単元を復習しよう。教科書や傍用問題集を繰り返し使って、基本事項の理解につとめましょう。

(参考) 過去5年の共通テスト・センター試験の全国平均点

くわしい解答解説はこちら

受験年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
平均点	61.48	43.06	57.68	49.03	53.21



i

京進高校部 数学担当からのアドバイス

実際の共通テストの問題を解いてみて、どのように感じましたか。

現行の共通テストでは、60分という限られた時間で4題解く必要があります。これが、皆さんが受験する2025年以降の入試より、解答時間は70分に拡大し、問題数は1題増えた合計5題になります。

今まで以上に大問1題あたりの問題量と計算量が膨大になるため、問題を素早く正確に解く必要があります。問題形式も、図表を読み解くものや、日常的な題材を数学的に考察するという馴染みのない形式で出題されることも大きな特徴です。

これらのことを踏まえると、共通テストを攻略するには、過去問や共通テストと同様の形式の問題を何度も演習し、共通テスト特有の出題形式に慣れる必要があります。京進の数学の授業では、このような問題に対応する力を身につけ、どのような問題に対しても対処できるようにします。最後になりますが、現役合格に向けて我々と一緒に頑張っていきましょう。



砂川 悟希 先生